



女性編成チームによる消防操法訓練会。

「男女が互いを補い合い、一団員として活動に従事。」



### 女性は気配り、男性は力

阪神・淡路大震災を機に、男女が共同して参画するという基本理念のもと、消防団組織でも地域社会における女性の力を活かそうと平成9年から女性団員の採用が始まりました。当初から性別による制限はなく一団員として活動に従事してきたため、女性団員も火災現場に出動し、消火活動を行うことも少なくありません。各訓練も男女同条件で行い、区内の消防操法訓練会では10チーム中3チームが女性のみで編成、そのうちの1チームが総合2位に入るといった快挙も達成しました。神奈川県下で初となる、男女混成下での女性分団長も誕生しています。女性団員は「気配り」を、男性団員は「力」を補い、互いに尊重し合いながら消防団活動を行っていくことが理想です。



水難救助訓練では水難事故を想定し、折りたたみボートの組立てや着水・操船訓練等を実施。



団員の救助資材の取扱及び技術向上を目指して行われる、災害時の車両救助救出訓練。

## 横浜市西消防団

Yokohama Nishi Fire Corps

### その他の活動

- ★地域の防災指導
- ★水難救助訓練
- ★車両救助救出訓練
- ★緊急走行訓練
- ★礼式訓練
- ★市の行事等での団員募集活動など

### 横浜市西消防団

昭和23年3月発足  
団員数 234名(平成25年1月1日現在)  
横浜市男女共同参画貢献表彰  
(平成24年)  
消防団等地域活動表彰(平成24年)

### 苦勞したこと

家庭での仕事も多い女性は、消防団活動との両立が難しく、また男性団員より力の面で劣ることに不安がありました。しかし、女性団員も車両に同乗したりホースを持ったりと積極的に活動に参加することで、団員としての成長は早かったです。

### 今後の課題

当団では、横浜市内で初の女子大学生及び女子高校生が誕生しました。今後、ますます地域の防災指導をはじめとする予防啓発活動に、女性ならではのきめ細やかさや優しさを活かしていきたいと考えます。

# 全国で活躍する女性消防団員。

赤羽消防団・横浜市西消防団

## 平成22年度 京都消防褒賞



平成22年度の東京都消防褒賞贈呈式。

## 赤羽消防団

Akabane Fire Volunteer

### その他の活動

- ★始式
- ★水防訓練
- ★総合防災訓練
- ★震災対応訓練
- ★祭礼、行事、年末等の特別警戒
- ★学校での防火防災訓練、応急手当の指導など



職場体験実習で赤羽消防署を訪れた地元の中学生たちに、消防団の活動内容を紹介。



### 男女共に地域を守る。

東京23区では、消防団員は男女問わず同じ活動を担うのが基本です。災害時には女性団員も防火衣で出動し、消防署隊と連携して、災害活動にあたります。今後は、首都直下地震などに備え、男女共に全ての団員がポンプ操法等を習得する訓練の計画も立てられています。長く男性を中心に運営されてきた団の活動も、女性加わることで救命だけでなく、被災者や住民への心のケアなど、女性ならではの思考や視点が活かされています。女性団員の活動スタイルは、地域や消防団の数だけさまざまにあっていいと思いますが、大切なのは男女がお互いにできることを補い合うこと。女性の役割が今後拡大していくなか、未来を担う人材の育成、幼児への啓発、高齢者とのふれあいや災害を語り継ぐといった分野には、女性の細やかさが生きるはずですよ。

「女性の思考や視点を活動に幅広く生かして。」



赤羽消防団操法大会では、男女混成チームが参加。開始報告をうける小澤副団長。

### 赤羽消防団

昭和29年12月発足  
団員数 200名(平成24年4月1日現在)  
・平成17年度消防庁長官賞(年頭綴)  
・平成22年度日本消防協会優良表彰(年頭綴)  
・平成23年度消防総監表彰(年頭綴)

### 苦勞したこと

昭和60年の入団から分団長を経て、前団長の勇退により副団長に任命されたのが平成22年。今もまだ、消防団の活動は世間に認知されていないと感じます。いつ起こるか分からない災害への対応は、家族や地域、職場の理解と協力が欠かせません。

### 今後の課題

地域の防災力を高める住民指導や人材の育成、いざというときの被害を少しでも小さくする減災活動に、女性の力が発揮されると期待します。それには、周囲の人々の理解を得るための努力や働きかけが、今後さらに必要とされます。